

QuadTech® ビジネスフォーム プレスコントロール

損紙削減・生産性効率改善
クォードテックは利益拡大をお約束します。

クォードテックは31年前 米国の印刷工場から始まりました。
世界86カ国でクォードテックの製品は活躍しています。



マルチカム自動見当装置



アキュカム カラーコントロール

製 | マルチカム 自動見当装置 印刷・加工位置合わせ装置 品質検査装置
品 | 静止画像装置 カラーコントロール装置 ウェブクリーナー

QuadTech®
Our passion is *your success*.™

クォードテック日本支店
〒336-0034 埼玉県さいたま市南区内容3-11-26
TEL : 048-839-8831 大阪 : 06-6330-0919
<http://www.quadtech.co.jp>

フォーム印刷

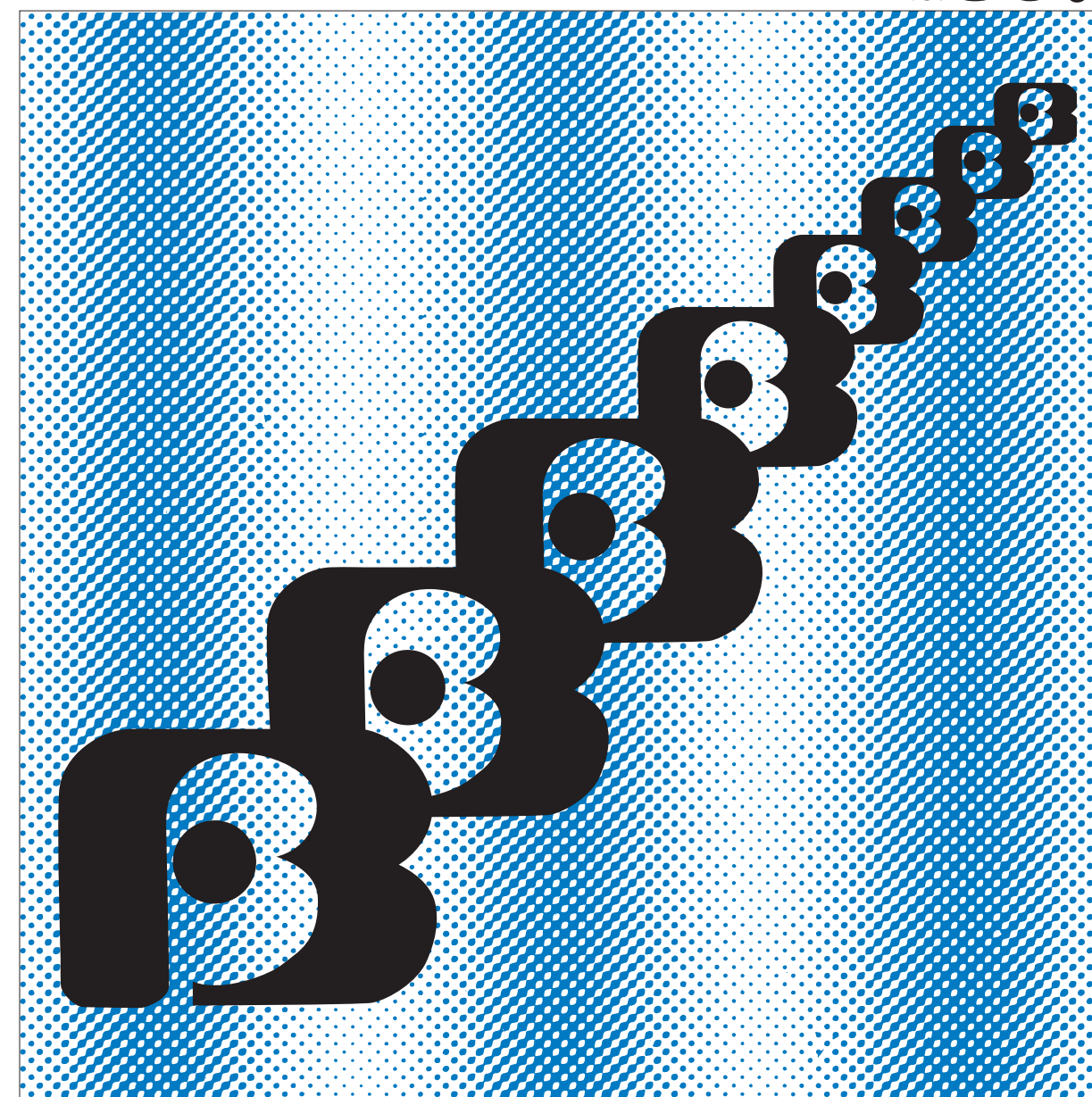


JAPAN BUSINESS FORMS ASSOCIATION

日本フォーム印刷工業連合会会報

発行 日本フォーム印刷工業連合会 〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8 日本印刷会館
TEL 03(3551)8615 FAX 03(3555)8466 ホームページ <http://www.jbfa.jp>

NO. **367**



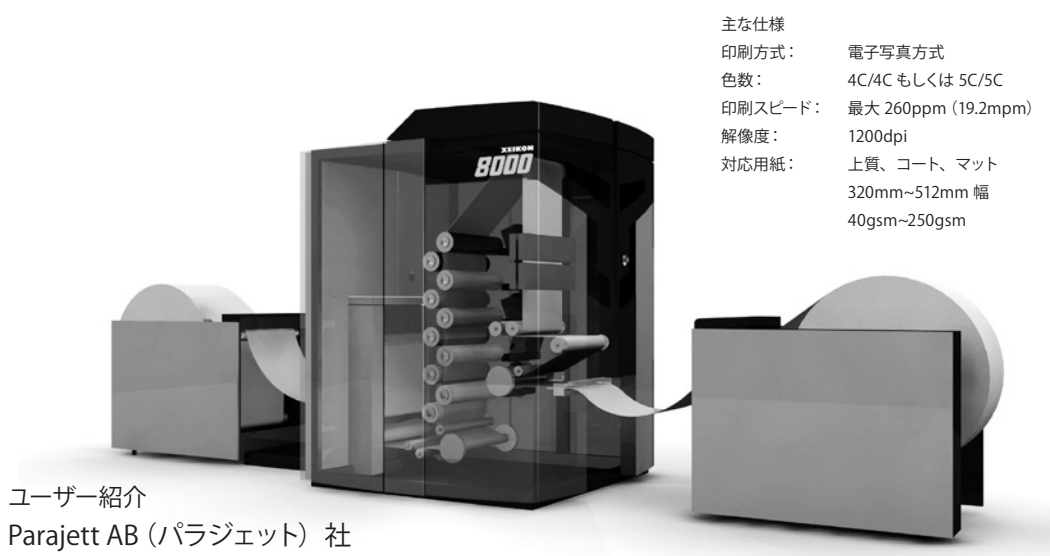
フルカラーデジタル印刷機

Xeikon 8000

ユーザーの声：

**スピード
品質
稼働率**

品質に厳しい流通業界のDMを6日間で600万ページ印刷するために、
「この3つの基準で満足させてくれたのがXeikon 8000でした。」



主な仕様
印刷方式： 電子写真方式
色数： 4C/4Cもしくは5C/5C
印刷スピード： 最大260ppm(19.2mpm)
解像度： 1200dpi
対応用紙： 上質、コート、マット
320mm~512mm 幅
40gsm~250gsm

ユーザー紹介

Parajett AB (パラジェット) 社

<http://www.parajett.se>

1904年スウェーデンに設立した総合印刷会社。オフセット印刷、デジタル印刷を含むIT技術を駆使して、顧客毎に最適なコミュニケーションのためのソリューションを提供。

このたびの東北地方太平洋地震におきまして、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに被災された皆様、そのご家族の方々に心よりお見舞い申し上げます。被災地の日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

販売代理店

サカタインクス株式会社 事業開発推進本部

大阪本社 550-0002 大阪市西区江戸堀1-23-37
TEL05-6447-5874 FAX 06-6447-5839
東京本社 112-0004 東京文京区後楽1-4-25(日教販ビル)
TEL03-5689-6674 FAX 03-5689-6633

ホームページアドレス <http://www.inx.co.jp>

B フォーム印刷

目次

日本フォーム印刷工業連合会会報 2011.4 No.367

東日本大震災により被災された会員の皆様へ	2
日本フォーム工連 平成22年度第8回理事会議事要録	3
日本フォーム工連 平成22年度第9回理事会議事要録	4
日本フォーム工連 東日本大震災対応会議議事要録	6
トピックス	9

新春講演会「取り戻そう！日本人の忘れていた心と知恵」

国産初の「ビジネスフォーム印刷資料」印刷図書館に寄贈

「PAGE2011」に日本フォーム印刷工業連合会が出席

東日本大震災によるフォーム印刷機の復旧報告

想定していたリスク以上のことが起こった時にどうするか！

「PRINT CHINA 2011」見聞録

工業会だより	16
--------------	----

関東フォーム印刷工業会 新春懇親会を開催

東北フォーム印刷工業会 新春講演会「デザインと音楽をめぐる旅」を開催

中部フォーム印刷工業会 新会長に杉山悟氏が就任

関西フォーム印刷工業会 新春講演会と新年互礼会を開催

九州フォーム印刷工業会 勉強会「印刷業界がいかにサイネージと共存共栄できるか」を開催

INFORMATION	19
-------------------	----

国際委員会 北米印刷事情レポート (2011年1月～3月)

TOYOINK

抜群の品質と生産性のフォーム印刷用インキ

FD フォーム X シリーズ

東洋インキ株式会社

RC事業統括部

〒104-8378 東京都中央区京橋2-3-13
Tel: 03-3272-7693

www.toyoink.jp

■ **高い硬化性** UV 硬化性を大幅に向上、高速印刷に対応。

■ **広い水幅** 水を上げても良好な印刷適正を実現。

■ **優れた転移性** 着肉を向上し印刷濃度をアップ。

■ **紙面強度の弱い用紙の紙剥け防止タイプもラインナップ。**

ビジネスフォーム印刷専用エッチ液

FCリスコート H-17 BFシリーズ

特徴	☆UV・油性減感インキに適切な乳化特性を付与し、インキの過乳化を制御 ☆種々の材料をコーティングしたインクジェット用紙並びに感圧接着紙の使用時にも汚れにくい ☆耐水性の低い染料系インキ・減感インキご使用時でも水元ローラー絡みを極力抑制
----	---



富士薬品工業株式会社

FUJI CHEMICALS INDUSTRIAL CO.,LTD

HP URL <http://www.fcfuji.co.jp>

本社 〒176-0012 東京都練馬区豊玉北3-14-10

TEL 03-3557-6201 FAX 03-3557-6205

大阪営業所 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町22-1

TEL 06-6384-1351 FAX 06-6389-3221

東日本大震災により被災された会員の皆様へ

3月11日の地震、津波による東北、東関東への大震災は過去になかった未曾有の大災害となりました。

被災された会員の方々や関係者の皆様に心からのお見舞いと哀悼の意を申し上げます。

東北フォーム印刷工業会を含め、会員会社には直接的な人的被害はないと伺っておりますが、大地震、大津波に加え、原子力発電所の崩壊という深刻なインフラ破壊に拡大し、日本産業界を根底から揺るがす事態に陥っております。我々業界全体でも災害直後より計画停電や紙、インクの供給不足などの緊急事態に直面しております。

早くも震災後一ヶ月を経過しましたが、未だ原子力発電所の事故収束の道筋が見えず、引き続き強い余震に襲われています。また、夏場の節電対策も差迫って来ております。幸い各インフラも徐々に回復と落ち着きを取り戻してきており、ここは我々も冷静に取り組み、全会員一致協力してこの長丁場の危機を乗り越えて行きたいと思っております。

なお、今回の震災で最大の打撃を受けた東北フォーム印刷工業会への支援を会員各社にお願いしましたところ、直ちに多数の大勢の仲間から暖かいご協力、ご支援を頂いたことをこの場を借りて厚くお礼を申し上げます。

日本フォーム印刷工業連合会会長 小谷 達雄

このたびの東北地方太平洋沖地震・長野県北部を震源とする地震により被災された皆さまに、心からお見舞いを申し上げます。

皆さまの被害が軽微でありますようお願いし、経済産業省とも連携しながら、業界の1日も早い復旧に努力してまいります。

平成23年3月14日

社団法人 日本印刷産業連合会会長 猿渡 智

■中国印刷技術協会BF印刷分会からのお見舞

中国印刷技術協会BF印刷分会全員を代表し、貴国の地で最近発生した地震による甚大な災害を受けたことに大変同情の意を表し、心より謹んでお見舞い申し上げます。

貴国民は災害がもたらす困難や苦しみに打ち勝つことにより更なる美しい故郷作りができると強く信じています。

2011年3月21日

中国印刷技術協会BF印刷分会 理事長 邢建民

我谨代表中国印刷技术协会商业票据印刷分会全体同仁，对于贵国近期遭遇的地震造成的巨大灾难，表示深切的同情和衷心的慰问！

坚信贵国人民能战胜灾害带来的磨难与痛苦，建设更美好的家园！

2011. 3. 21

中国印刷技术协会商业票据印刷分会 理事长 邢建民

日本フォーム印刷工業連合会 平成22年度 第8回理事会議事要録

■平成23年1月27日(木) 午後2時30分より 椿山荘プラザ「カシオペア」

■出席者 (23名)

小谷会長、櫻井副会長、瀬戸副会長、小谷(正)常任理事、中村常任理事、丹羽常任理事、神崎常任理事、玉田常任理事、岡田常任理事、福田常任理事、佐藤常任理事、佐久間常任理事、松尾常任理事、清水常任理事、林常任理事、佐々木常任理事、福武理事、石坂理事、坊野理事、滝本理事、西川監事、吉澤監事、山口(専務理事事務局)

議 題 (1)各フォーム印刷工業会・会長挨拶

(2)委員会報告

(3)日本印刷産業連合会等関連報告

議 事 冒頭、小谷会長の開会挨拶があり議事に入った。

「小谷会長挨拶骨子」

時間の経つのは早くともう2月になろうとしております。11月にはオーストラリアでの会議に出席しておりましたが、オーストラリアは明るく景気が良い印象で、日本向けにAMEXやCitibankの請求書の発行業務を大規模にやっております。オーストラリア人は良く「She Will be Fine」と言っていて、「何事も良くなるよ!」と明るい性格です。日本人も少し見習わなければならないと思う。

大変に厳しい年明けですが、本年は、2月に印刷展示会の“PAGE 2011”への出展など、新たな取り組みをして参ります。皆様方のご協力により業界発展のために尽力を尽くしていきます。

各フォーム印刷工業会・会長挨拶

「北海道・佐藤会長挨拶骨子」

1月7日に北海道印刷関連業の新年交歓会に約20名の北海道フォーム印刷工業会の方々と参加し、大変盛り上がった会合であった。

「関東・瀬戸会長挨拶骨子」

各委員会活動を支援する形で講演会やセミナーに参加しているが、本年は関東独自でも様々な企画を行なって行きたい。昨年から各社の生産設備を利用しあって生産展開をして行こう、との新しい動きもありますので、今年は依り積極的に取り組んで行きたい。

「中部・松尾会長挨拶骨子」

11月18日に東京電機大学出版局の植村局長を招



いて「クロスメディア」についての研修会を実施し、約70名を超える方々の参加を頂き大変盛況でした。12月9日には忘年会を実施した。

「関西・清水会長挨拶骨子」

関西では昨年夏以降、中堅の印刷会社が数件倒産され、非常に厳しい状況である事を痛感している。

1月12日に大阪工業会主催の互例会が太閤園であり約600名が参加した。関西工業会では、1月20日に堂島ホテルで約100名が参加して講演会と新年互例会を開催した。

関西経済圏の地盤沈下が激しく、各企業が協調して関西経済を盛り上げて行こうとの動きがある。

委員会報告

●資材委員会

○12・1月度用紙事情についての報告があった。

●業務委員会

○11月・12月度月次計算についての報告。
○PAGE 2011出展計画について報告。

●国際委員会

○1月度米国レポートを報告。

●環境委員会

○平成23年度環境優良工場申請について報告。
○エコ発注リーフレット雛形について説明。

日本印刷産業連合会等関連報告

事務局山口より、資料に基づき以下の報告があった。

(1) 平成23年度日印産連主要行事日程について
(2) ISO/TC130 (印刷関連ISO) 運営委員会情報
(3) 米国PIA Flash Report報告 (日印産連国際委員会)
(4) 印刷現場における個人情報保護Q&A 第3版
(5) 厚生労働省関連広報
(6) 番号制度意見書 (日本経済団体連合会)
(7) 情報セキュリティポイント学習 (情報処理推進機構)

最後に櫻井副会長より閉会挨拶があった。
「櫻井副会長挨拶骨子」
新年も大雪が降っている地域もあり厳しい年明

けです。13年前に国連がグローバル化の必要性について調査を行ない、No.1はオランダ、そして最下位が日本であった。世界の動向と日本の動向は異なっていると感じている。ビジネスフォームを巡る市場環境は非常に厳しく、少子高齢化による価値観の変化や、行動様式の変化などにより、ビジネスフォームの簡素化や縮小化に結びついている。

今年は卯年であるが「辛卯」とは、厳しい状態から脱却するために体制を整える時代。そして、大きく飛躍する年であるので、皆さまとともに頑張っていきたいと思う。

次回 平成22年度第9回理事会
開催日 平成23年3月10日 (木)
時 間 午後1時30分より
場 所 日本印刷会館2階 201会議室

を確認して閉会となった。

日本フォーム印刷工業連合会 平成22年度 第9回理事会議事要録

■平成23年3月10日(木) 午後1時30分より 日本印刷会館2階201会議室

■出席者 (20名)

小谷会長、櫻井副会長、瀬戸副会長、小谷(正) 常任理事、丹羽常任理事、神崎常任理事、玉田常任理事、佐々木(岡田常任理事) 代理、佐久間常任理事、松尾常任理事、清水常任理事、和田常任理事、林常任理事、佐々木常任理事、福武理事、石坂理事、坊野理事、西川監事、吉澤監事、山口(専務理事事務局)

議 題 (1) 委員会報告
(2) 日本印刷産業連合会等関連報告
(3) 各フォーム印刷工業会からの報告

議 事 小谷会長の開会挨拶があり議事に入った。
「小谷会長挨拶骨子」

早いもので3月になってしまいましたが、日本経済は正月から良くない状況が続いています。先日ヨーロッパへの移動で1時間少しのフライトでしたが、座席の両側にいた人がiPadを開いて映画を観ている光景に出会い、世の中は世界的にペーパーレス時代を迎えるのかと強く思いました。

来年はDRUPAの年になりますが、IT業界から、また、グラフィック業界がデジタル印刷機を挙げて出展してくるものと思います。

先日フォーム工連として初めてPAGE 2011に出展し、多くの方々に私達の団体を知って頂く機会



になりました。また今年6月の通常総会行事として、全国から理事以外の多くの方々にお集まり頂けるように、講演会を企画しております。是非ともフォーム工連活動にご協力をお願い致します。

委員会報告

●資材委員会

○3月度用紙事情についての報告があった。

●業務委員会

○1月・2月度月次計算についての報告。
○平成23年度主要会議日程及び活動計画について報告。
○“PAGE 2011” 出展状況について報告。

●国際委員会

○2月度米国レポートの報告。

●技術委員会

○東京・大阪で開催するJUNAIO共催ワークショップについての報告。

●環境委員会

○環境優良工場応募表彰応募について説明。

●市場調査委員会

○電子記録応用基盤フォーラムの内容について報告。

日本印刷産業連合会等関連報告

事務局山口より、資料に基づき以下の報告があった。

(1) セーフティネット保証の業種指定
(2) 低炭素社会実施計画、循環型社会形成自主行動計画
(3) 昇華転写紙のお願い
(4) 植物インキの表示に関するお願い
(5) GP認定工場一覧
(6) 第12回FAGAT開催(シドニー)
(7) 印刷産業ビジョンに関するアンケート調査
(8) 電子出版に関するアンケート調査報告書【要約】
(9) 産業活力の再生及び産業活動の革新に関する特別措置法の一部を改正する法律案の概要

各工業会報告

関東フォーム工業会報告(瀬戸会長)

1月27日の新春懇親会には約200名の多くの方々に参加頂き盛況に開催する事ができた。5月には春季のゴルフ親睦会と関東の通常総会、8月には夏季懇親会など例年通り実施予定。フォーム工連の行事に積極的に参加することで、関東工業会として活性化を図っていききたい。昨年から行なっている支部活動をさらに広げて実りのある活動に育てて行きたい。

東北フォーム印刷工業会報告(佐久間会長)

今、5月の総会の準備を進めているが、東北地区でもフォーム印刷を製造していない企業が増えて、会の存続が難しい状況に来ている。今年の10月の東北での持ち回り理事会は、紅葉の綺麗な裏磐梯の松原湖傍のホテルでの開催を予定しているので、多くの方々に参加頂きたい。

中部フォーム印刷工業会報告(松尾会長)

2月に定例の理事会を開催したが、特別会員1社が合併のために脱退される。中部は3月が年度の切替になるので会長の交代を予定している。任期途中でもあり引き継ぎが充分に行えるように、引き続き理事として残る。

関西フォーム印刷工業会報告(清水会長)

大阪の印刷企業は厳しい状況にあり、金融面からも分析を行い、今後の経営のあり方を再検討しようとの動きがあります。今回、関西の瀧本さんが京都印刷組合の会長に就任されるので、印刷工業組合とも連携を採っていききたい。

また、関西工業会として上海への視察ツアーを計画している。

九州フォーム印刷工業会報告(和田会長)

2月22日の定例理事会に併せて約40名が参加して講演会と懇親会を実施した。講演内容は「デジタルサイネージと印刷との組み合わせ」をテーマに、博多に本社を持つメディアファクトリー(株)の毛塚社長から講演を頂いた。

福武理事(太平洋印刷(株) 社長) から弔問のお礼が述べられた後、瀬戸副会長より閉会挨拶があった。

「瀬戸副会長挨拶骨子」

最近の入札制度の中に最低価格が取り入れられるようになり、歯止めを掛ける意味で良い傾向が生まれている。これから年度末に向けて忙しい時期を迎えるが、新年度を元気に迎えたいと思う。

次回 平成23年度第1回理事会
開催日 平成23年4月14日(木)
時 間 午後1時30分より
場 所 日本印刷会館2階 201会議室

を確認して閉会となった。

日本フォーム印刷工業連合会 東日本大震災対応会議議事要録

■平成23年3月24日 午後2時より 日本印刷会館5階501会議室

■出席者 関東フォーム印刷工業会、日本フォーム印刷工業連合会(関東地区)理事・監事 各位
特別会員：日本製紙(株)情報・産業用紙営業本部BF用紙グループ情報用紙一部 伊藤明氏、
大王製紙(株)情報用紙営業本部東日本情報用紙部部長代理 越知啓二氏、王子製紙(株)情報
用紙部グループマネージャー 桂木俊哉氏東洋インキ(株)印刷情報事業本部RC販売推進部部長
古賀研介氏、(株)ミヤコシ代表取締役社長 宮腰巖氏、富士フィルムグラフィックシステム
ズ(株)営業一部販売三課 児玉隆氏、ピッツニーボウズジャパン(株)DMT事業部東日本営業
部部長 神谷正氏、サカタインクス(株)事業推進部アシスタントマネージャー 竹本好孝氏
協力会社：三菱製紙(株)執行役員情報・特殊紙営業部部長 山田清春氏
講 師：眞崎リスクマネジメント研究所所長 眞崎達二郎氏
業務委員会、小谷委員長、専務理事 山口

冒頭 関東フォーム印刷工業会瀬戸良教会長から「今日は大変な被害を受けられた各社から貴重な時間を割いて頂いて、お集まり頂きましてありがとうございます。今後とも各社の皆さんのご健闘も含めて、いち早い復旧を願っています」と開会の挨拶があり、各社からの報告が行なわれた。

日本製紙(株) 情報・産業用紙営業本部BF用紙グループ情報用紙一部 伊藤 明氏

北海道地区の釧路工場、北海道工場は通常生産を継続しています。被災が大きいのは石巻工場で、大きな津波を受け、まだ従業員の安否も確認できていない部分もあり、復旧作業は進められなく、今日この場で復旧の見通しの具体的な日程は言えない状況にあります。

新聞用紙を製造している岩沼工場は多少高台にあり津波の被害は受けていませんが、非常に揺れが激しく、建屋が損傷し現在は全停している。特に、海までの排水路の被災が酷く、使用できない状態です。

情報用紙中心の勿来工場は設備の一部が津波の影響を受け、取水や排水の設備、ボイラー設備の一部に損傷を受けました。同工場の在庫は、感熱紙がメインの平置き倉庫は半分程度損害、ノーカーボン紙がメインの立体倉庫はラックからの荷崩れが多く、クレーンが損傷しているためにピッキングが不能なことから、修繕には長期間かかる見通しです。更に、いわき市にある勿来工場は福島原発の半径30キロ圏内にはないが、従業員が一時

自宅待機の状況にもあり、インフラを含めて復旧作業が難航しています。

関東在庫状況は、ノーカーボン紙の平判は有明地区に在庫していますが、損傷が酷いため検品をしたものについて出荷をしています。ノーカーボンの巻取は足立倉庫に在庫していますが10～20%は地震で破損していますが、残りは検品したうえで順次出荷しています。フォーム用紙は川越倉庫に在庫していますが、被害はありません。何れの倉庫も燃料不足により、配送が限られている状況にあります。

三菱製紙(株) 執行役員情報・特殊紙営業部部長 山田 清春氏

八戸工場ではフォーム用紙や高砂工場向けのノーカーボン原紙を生産しています。幸い社員に人的被害はありませんでしたが、協力会社の従業員がプレハブ事務所ごと津波で流され、6名が被害を受け内2名が入院しました。津波により工場全体が1～3m程度浸水で灌水し、抄紙機本体は2階部分にあり損害は少ないですが、1階部分のモーターや電気関係設備は浸水してダメージが大きい状況です。4月の下旬を目途に第1段として、パワープラント、オイルボイラー、石炭ボイラーから復旧を進めています。従業員の家が浸水し住めない方々への社宅提供や、水道、電気等のライフライン復旧に向けて作業中です。

設備としては7台の抄紙機、3台の塗抹機があ

りますが、原材料の関係で若干、前後すると思いますが、5月の中旬ごろから稼働を開始したいと考えています。しかし、現時点は完全復帰までは見通せないので4月に入って報告をさせて頂きたい。

八戸工場の在庫の状況ですが、1～3mの浸水ですので、全部在庫が駄目になった訳ではありませんので現在調査中です。北上工場や白河工場について被害はありません。東京地区の在庫被害は軽微です。木場倉庫は板紙中心でダメージを受けましたが、情報用紙のノーカーボン紙やフォーム用紙は朝霞倉庫に在庫され、被害は10～20トンという単位で軽微です。

大王製紙(株) 情報用紙営業本部 東日本情報用紙部部長代理 越知 啓二氏

情報用紙関係の工場は今回の被害地区にありませんが、新聞用紙、板紙、段ボール原紙を製造しているいわき工場が震災を受けております。

3月14日の時点で操業再開を目指して復旧作業を終わり、数日後には運転再開できる見込みという発表をしましたが、福島第一原発の放射能問題に伴って、操業の出来ない状況が続いています。

富士宮工場は家庭紙関係ですが、計画停電の影響で操業時間に問題を生じていますが、大きな影響はありません。大王製紙の岐阜県の可児工場では、ノーカーボン紙やフォーム用紙、コピー用紙等を製造。四国の三島工場は一般用紙を含め生産調整の関係で数台の抄紙機を止めた影響もあり、増産体制の余地を検討中です。

東京での在庫被害ですが、平版コピー用紙は高く積載していた事もあり100トン単位で荷崩れをおこし被害が発生しています。しかし、ノーカーボン紙、フォーム用紙についての損害はありません。

王子製紙(株) 情報用紙部 グループマネージャー 桂木 俊哉氏

震災被害地区の生産工場は、板紙、段ボールへの影響で情報用紙に関しての設備被害はありません。東京地区の営業倉庫では被災が発生しましたが、現時点でフォーム用紙、ノーカーボン紙については倉庫の復旧が完了し、デリバリーが可能になりました。しかし PPCと感熱紙については、

現時点で倉庫の復旧のめどがたっておりません。

新木場倉庫には、巻取りと平版のフォーム用紙とノーカーボン紙を在庫しています。巻取り紙については約10%程度、平版は約20%の被害を受けた。また 浦安倉庫にも情報用紙を在庫しておりますが、復旧も進んでおらず被害状況は不明です。

東洋インキ(株) 印刷情報事業本部RC販売推進部部長 古賀 研介氏

私の部門はUVインキを扱っておりますのでUVインキに絞って報告します。

印刷インキの生産出荷に関する危機的状況という非常にセンセーショナルなタイトルで発表されました。今回の危機的状況は、油性の枚葉オフセットインキ、オフ輪インキ、浸透型の新聞インキが対象で、UVインキは含まれておりません。

ロジン変性フェノールはご承知の方も多いと思いますが、松ヤニとも呼ばれるロジンと石油系材料であるフェノール樹脂を合成して製造されるものです。これは油性のインキのワニスの骨格となる材料で、この石油系の資材が震災の被害を受け、全く見通しが立たなく入手困難な状況です。また、メチルエチルケトンはMEKと一般に呼ばれ、非常に揮発性の高い溶剤でグラビアインキのメインの材料ですが、鹿島沖の石油コンビナートの火災で非常に大きな打撃を受け、この基材も入手が困難です。

弊社のUVインキの生産工場は京都の伏見にあり通常どおりの生産をしております。インキに使われる化学顔料は約20時間くらい長時間反応させて製造しているので、計画停電で一部の顔料について作れないものが出ています。メインの色は問題ありませんが、ビジネスフォームのインキは色の種類が多いので、化学顔料が用意できず供給不安になるものが発生する可能性もあります。

東北の拠点倉庫も被害を受けましたが3連休で復旧し、昨日からは東北エリアのお客さまにインキ供給ができる様になりました。インキの物流拠点は埼玉にありますが、計画停電の影響で停電になるとインターネット等による受注システムが全く機能しなくなり、物流業務に障害をきたしています。一部のドロップアウトカラーやOCRインキについては、一部油性インキが使用されています

ので、現状の在庫がなくなると次の生産が出来ない状況にあります。

最後に今回の原料逼迫による供給が厳しいということと、インキの値上げは全く別と考えて頂きたいとご理解頂きたいと思えます。

富士フィルムグラフィックシステムズ(株) 営業一部販売三課 児玉 隆氏

PS版を中心に生産している吉田南工場は11日の地震発生時に緊急停止を致しましたが、12日の土曜日からは通常生産に戻っています。PS版の基材となるアルミの調達や諸材料についても生産に支障がありません。また、製版フィルムの製造工場である足柄工場の損害はありません。ただ、現像機の製造で東北地区の協力会社からのパーツが入らない状況が発生しています。吉田の流通センター、神奈川の流通センター、都内の江戸川区平井にある倉庫と物流部門、全てが通常稼働しています。機械の保守のテクノサービスについても被害がなく稼働しています。

ピッツニーボウズジャパン(株) DMT事業部 東日本営業部 部長 神谷 正氏

東京の大井埠頭にパーツセンターがありますが全ての在庫品について被害は全くない。仙台支店の事務所ではデモ機が落下し破損するなど、多少の被害を受けたが復旧している。仙台のユーザーから震災当日電話があったが、翌日電話がつながり確認ができ、18日に電源の供給を受け復旧した。

14日からは保守契約をしているユーザー各社を訪問して確認修復作業をしている。6社については震災の影響を受け復旧を行なったが、一部ユニットが約1m移動してしまったユーザーもあった。22日には全ユーザーについて確認を終了している。

先程、機械の固定方法で提案があったが、基本的にはアンカー固定はしない状態にしている。我々は50cmとか1mとか機械の動く範囲を定め、移動範囲を最小限に抑えるようにチェーンを結ぶなどの対策が必要と考えている。

サカタインクス(株) 事業推進部アシスタントマネージャー 竹本好孝氏

東北エリアでは幸いザイコンユーザーはございません。関東圏のお客様でも一部装置が移動し、軽微な被害を受けたが、即座に稼働できる状態に復旧できたとの報告を受けている。本日、地震対策として機械固定方法についての情報交換が出来たので、研究をしていきたい。

専務理事山口から入手した東北フォーム印刷工業会会員からの報告

仙台で震災を受けた笹氣出版印刷(株)様が電源と通信インフラが回復したとの情報をtwitterにより入手し、同社にご連絡を行ない、笹氣幸緒社長から事務局に対して要望事項が22日(火)に入った。

1. 流通・業務は勿論だが、自宅で生活している人にも車が必需品。食料も暖房も自分で何とかしなければならぬので石油が欲しい。
2. 機械の損傷も甚大で、速やかに復旧できるようメーカーの修理技術者を大量に投入して頂きたい。
3. 震災の影響を受けなかった会社は、紙とインキがあれば手伝えますという返事。材料の流通を確保して欲しい。
4. 年度末の仕事が完了しない上に修理代金等が発生するため、来月からの資金繰りに影響が出てしまい、国の中小企業対策を至急立ち上げて欲しい。(この要望の項目4については、3月13日に中小企業庁から激甚災害指定になり、特別窓口が設定されていることを工連事務局より連絡し、笹氣出版印刷様から東北地区の会員の方々にも配信頂いた)

小谷正嘉業務委員長からの閉会挨拶

被害を受けられた東北会員への支援をはじめ、色々なことをやっていかなければならないが、あまりにも被害規模が大きく、一企業で処理できる問題ではありません。今日、眞崎先生から丁寧にご説明を受けましたけれども、今日、各社から頂いた情報を傘下の企業、一社、一社が自分の取引先に強く状況説明をしていく責務があると思う。我々印刷業者からもお願いし、特別会員の方からもお願いするということで、現況をお客さまに理解をして頂くこと。それをいろいろな立場から力を入れてやっていきたいと願っている。

トピックス

新春講演会

「取り戻そう！日本人の忘れていた心と知恵」

日本フォーム印刷工業連合会は1月27日、目白・椿山荘において、(社)心学修正舎理事の後藤三愚氏を講師に、新春講演会「取り戻そう！日本人の忘れていた心と知恵」を開催した。

江戸時代の京都の町家を借りて町人庶民に「席銭はいりません、お望みの方は奥へどうぞ、女性もどうぞ」と行灯を出して、正直・節約・勤勉と三徳の「商人の道」を説いた石田梅岩の「石門心学」を紹介。

経済社会の大勢は貨幣へ執着する「カネの亡者」ばかり、使命感や志が必要である政治家や社



講師 後藤三愚氏

会的リーダーたちの心も墮落している。国や、企業や、家庭を守り、永続を計ろうとする意識が薄くなり「李下に冠を正さず」の心も忘れ、企業の経営者も短い任期中の利潤追究のみに執着し、永続の視点を忘れてるように思う。

今、「石田梅岩の心」を実践することで、必ず皆様の会社に「好ましい社風」が生まれ、良い社風は企業の「トータル的・力の象徴」となり、広く社会に「感心と感動」を呼び起す土壤が社内に充満し、広く企業の周辺に「芳香」を漂わせ、近寄るもの多しとなる。皆様のご決断とご活躍をお祈りしております。と講演を結んだ。



平成23年新春講演会

国産初の「ビジネスフォーム印刷資料」印刷図書館に寄贈

(株)昇寿堂(取締役社長瀬戸良教)は1月25日、印刷図書館(畠山惇館長)に日本で最初の「ビジネスフォーム印刷資料」を、日本フォーム印刷工業連合会を通して寄贈した。

寄贈品は同社が保管していた1952年3月、IBM405型統計会計機用の出力用紙として、(株)日立製作所多賀工場向けに製造した製品と資料。

IBMチャートに烏口を使用して丁寧に手書きされた原稿。米国製印刷機を改造したBF印刷機で製造した国産初のビジネスフォーム、IBM405

機でプリントアウトされたマージナルパンチ無しの初期の連続製品、マージナルパンチ加工がなされている後期の連続製品の3点。瀬戸社長は「ビジネスフォームという印刷物は、プリンターの規格に合わせて全てインチの単位で設計されている。しかし、当時の日本ではインチを計測する道具もなく、印刷機を苦心して改造する等、先人達の知恵と努力がこの製品に詰まっている。是非、多くの皆さんに見てもらうことで印刷文化と歴史の継承に、お役に立てばと思



ビジネスフォーム寄贈式
島山館長（左） 瀬戸良教取締役社長（右）

う」と語った。

寄贈を受けた印刷図書館の島山館長は「日本の戦後の経済成長とビジネスフォーム印刷は、大きな関連をもっており、印刷業界の歴史にとって欠かせない大変貴重な資料を寄贈頂いたことに感謝している」と述べた。

この寄贈資料は永久保存ができるように、ナカバヤシ(株)の技術を使用して保存処理が行なわれ、2月に開催された“PAGE 2011”に展示した後、日本印刷会館1階のショーケースに展示している。

フォーム印刷工業連合会として初めてPAGE 2011に出展

(社)日本印刷技術協会(JAGAT)主催の“PAGE 2011”が2月2日から4日までの3日間、池袋のサンシャインシティコンベンションセンターで開催され、7万3,720名が来場した。

2月2日の開会式で、来賓の経済産業省商務情報政策局文化情報関連産業課の高橋聡課長補佐は「昨年は電子書籍元年と言われ、コンテンツ配信などの市場が活発になってきた。印刷業界は書籍などのデジタル化を支える重要なプレーヤーだと思う。業界にとって今がまたとないチャンスの時になると考えている。情報をデザインする役割をいかに担っていいのか、模索して頂きたい」と挨拶した。

フォーム印刷工業連合会として“PAGE 2011”に参加するため、会員から出展参加者の募集を行ない、参加各社による出展準備委員会を組織して準備に当たった。正月を挟んで約2カ月という短期間での準備であった。

出展は参加各社から特徴ある製品の展示が行なわれ、来場した多くの方々にビジネスフォームの進化した姿を見て頂き、大きな成果があった。

事務局からは「日本に於けるフォーム印刷の

歴史」として1952年(昭和27年)に製造されたビジネスフォームの国産化1号の製品展示。「日本フォーム印刷工業連合会の歴史」をパネルで紹介。

昨年から国際交流を行なっている中国印刷技協会商票据印刷分会からは、日本では目にする事が出来ない「中国のビジネスフォーム製品群」を10社から200点以上を送付頂き、日本で初めての展示。

また、今後業界で取組むべきアイテムとしてAR(Augmented Reality: 拡張現実)のライセンスフリーブラウザー「JUNAIO」の紹介を行なった。

今回の出展に参加した(株)木万屋商会から「零細企業なのに出席企業になれた」と嬉しい手紙が届いた。

出展参加費が5万円で素晴らしい効果をえられた。社員のモチベーションは考えられないくらいアップした。参加した各社の展示内容も「紙メディア」を中心まとめられ、フォーム工連に加盟していて本当に良かったと実感。社内から説明要員として選

ばれた社員は、展示会場で出展に参加した各社の仲間が、互いに応援をしてくれたことに対し感謝していた。

また、展示製品サンプルを作った開発プロジェクトの活動を誇りに思うとともに、開発にあたって相互の思いやりが見え、製品の完成への喜びが環になった。

社員から「来年も是非出そう」「木万屋商

会に勤めてよかった」こんな嬉しい報告があり涙した。

参加会員 (株)イセトール (株)木万屋商会
(株)昇寿堂 トッパン・フォームズ(株)
三郷コンピュータ印刷(株)
協力出展 中国印刷技協会商票据印刷分会
サイバネットシステム(株)



PAGE 2011 会場風景



PAGE 2011 出展参加者

東日本大震災によるフォーム印刷機の復旧報告

(株)ミヤコシ代表取締役社長 宮腰 巖氏

幸い私どもの秋田工場はほとんど震災の被害はありませんでした。

現在把握している限りでは、岩手県、宮城県、福島県、栃木県、茨城県、埼玉県で42～43社のユーザーが被害に遭われております。大半のユーザーの方々には甚大な被害はありませんでしたが、仙台の2社についてはかなり被害を受けておられます。その内の1社につきましては、3月12日から約10名の技術者を被害工場に派遣して復旧に努め、19日から稼働が開始されました。しかし、もう1社は全く壊滅状態で印刷機械そのものが全く駄目になってしまいました。以上の様な状況で4月1日にはほぼ正常稼働に戻しました。



写真提供：(株)日進堂印刷所

この復旧作業で秋田の工場から約半分の人手が取られた関係で、受注を受けている部品関係も含めて機械の生産が一時ストップしてしまい、納期の面で少しご迷惑をお掛けいたし、申

し訳なく思っております。

今回の地震では、各社で交換胴の落下事故が非常に多く、把握しているだけで200台を超えています。幸いに落下で人的被害はありませんでしたが、落下事故の約8割以上は格納時にストッパーを掛けていなかったために発生しています。格納時には必ずストッパーを掛けることを是非、皆様方をお願い致したいと思います。

この交換胴の修理なのですが、落下した交換胴は0.3～0.5ミリ位の傷が入っている胴が多く、再生するには、解体、メッキ落とし、再メッキ、研磨、再組み付けと、時間と手間が掛ります。更に、今回の震災で交換胴のメッキ加工を行っていた企業が壊滅状態で、特殊なノウハウを必要とする版胴のメッキ研磨が出来ない状況にあり、交換胴の補修という課題が残っています。修理に入る前に、眼視検査で傷が入っている胴については、事前に新規製作して全体の製作時間を短縮するように進めておりますが、やはりメッキ加工がネックとなっており、全力で取り組

んでいます。

今回の緊急復旧でいちばんの障害は、数日間災害地方面に緊急車両しか入れず、復旧技術者がユーザーの被害工場に入ることが出来なかったことです。しかし、東北地区の秋田工場から技術者を派遣したので、他社より比較的早い対応が図られたと思っています。

仙台沖宮城地震の折にも議論になりましたが、印刷機械の地震対策としてアンカーボルトでの設置方法ですが、今回の震災でもアンカーボルトで床に固定していなかった事で、ずいぶん早めに回復できたと思います。一部インクジェット印刷機がアンカー固定であったために、印刷機械よりは回復に時間がかかってしまっております。

今後とも固定方法については勉強しなければなりませんが、完全に機械を固定してしまうアンカー固定ではなく、地震で多少機械が動く幅を持った方法で、アンカーを打つ事が良いのではと考えています。

想定していたリスク以上のリスクが起こった時に どうするか！

眞崎リスクマネジメント研究所 眞崎達二郎 氏

今回の地震については、地震の被害復旧だけでも大変なのに、原発の事故処理、電力不足の三つ問題が重なってしまった。問題点は下記。

I：想定外のリスクに如何に対処するか。

今回の地震と大津波は過去の事例から予測はされていたが、マグニチュード9にはならないと思って対策は取られていなかった。想定外だったと言われている。

テレビで、10メートルの防潮堤について「今後は20m～30mの防潮堤をつくらないといけないでしょうか」と住民が専門家に尋ねたら、そ

の専門家は「そんなことは財務的に出来るわけがない。割り切って大きな津波が来たら逃げるしかない」と言っていることが印象的であった。

想定していたリスク以上のリスクが起こった時にどうするか、ということを考えていなかったということが、リスクマネジメントの関係者で今シリアスに議論されている。

柏崎原発の地震後に、福島原発は津波が来たときには大丈夫かと福島県共産党委員会が公開質問状を東京電力に出したが、東京電力は回答を拒否したとの記録が残っている。東京電力はそういうことは想定することではないから、答



写真提供：日下洋一氏（石巻在住）

える必要もないと判断したのだと思うが、それが実際に起こったわけである。

津波だったら逃げる。普通の企業の場合は想定以上のことが起きた時、とても体力が持たないから事業を止める、あるいは倒産する等の選択肢もあるが、原子力発電の場合にはそうはいかない。佐賀の玄海原発について、九州電力が改善しますと言っている。

II：もうひとつの問題は停電

数年前東京で、ちょうど福島原発が休止中で、夏季に電力が不足し停電になる恐れがあるとの問題が発生した。私は仕事の関係で中部電力、関西電力、中国電力にヒアリングに行ったが、異口同音に50ヘルツを60ヘルツに変換をする変換装置に限度があり、残念だが100万キロワットしか東京電力には送れないと。装置を増やしても電力各社は全く収益に寄与しないわけで、増設も進んでいない。今、東京電力で1,000万キロワット足りないといっても、100万キロワットしか送れない。中部電力が30万キロワットの変換設備を東清水に作ったが、送電線設備が不十分で10万キロしか送れないと中日新聞が報道している。東日本地区の各産業界、並びに市民生活に深刻な影響を与えたということについて、非常に残念な思いでいる。

「たぶん起こらないだろう」という事が「もっ

とも悪いかたちで起こった」のだと思う。阪神淡路大震災の時、銀行系の損害保険代理店にいてたびたび神戸に通った。あの時は地震の被害対策だけだったが、今回は原発の問題と停電の問題が加わった。私は中業企業庁の中小企業BCP（緊急時企業存続計画または事業継続計画）の委員をしていて、ガイドラインの作成に関わったが、アメリカのBCP対策のトップが原子爆弾で、2番目が停電。日本では自然災害がトップ、それに今回は停電が加わり非常に問題。

この夏には深刻な電力不足が起こるわけで、各企業に大きな影響を及ぼす。休電日を作るとか、電力会社と話し合って規制するとか、大胆な対策を打たないとうまくいかないと思う。

どう考えても夏場にもっとひどい電力規制が行なわれることは間違いないから、それについての対応が必要。私はこの電力規制の影響で売上げが減ると思う。売上げが減ると損益が悪くなる。そうすると金繰りも悪くなる。それをどうするかは3カ月しか余裕がないが、夏場までには考えなくては行けない。

東京電力の経営状況を申し上げると、売上げは約5兆円、月商は約4千2百億円。借入・社債が全部で7兆5千億円、売上げの5兆円より多いが、設備産業なので仕方がない。しかし、問題が発生してからまだ2週間も経っていないのに、2兆円の緊急融資を受けるとの報道。2兆円というのは月商の約5カ月分。皆さんの企業で考えて見て下さい。2週間以内に会社の月商の5カ月分の金が足りなくなる。どれほど東京電力は深刻なことでしょうか。

東京電力は先期末の預金残高が1,800億。それは月商の0.3カ月分。一般的には預金は月商の1カ月分ぐらい持ってないと、何かあったときに対応出来ないのが普通です。

繰り返しになるが、停電と経済の低迷で、夏季に向かって売上げが減った時どうするかについて、各社は十分にご検討下さい。私は簡単な

表ソフトを作っているが、売上げが減ったら損益・資金繰りがどうなるかを検討して頂きたい。中小企業庁から発表されている融資制度は利用すべきだし、効果もあると思うので、万全の対策をとって下さい。

私はご縁があって「中小企業BCP(事業継続計画)策定運用指針」プロジェクトで有識者会議委員となり、財務診断モデル(財務対策)の部分に深く関わりました。そこで、この機会にリスク発生時(特に地震発生時)の資金繰り対策についての勉強会を各社でされてはと思います。

今回の原発事故に際して、「想定外の津波」と言う言葉が使われていますが、首都圏の場合、津波に当たるのは大規模な火災です。東京都では「東京都火災危険度マップ」が公表されています。

また 東海地震・東南海地震が予想されている静岡県各地・名古屋市・三重県などでは津波ハザードマップが公表されていますが、対策にお金が掛りすぎて到底対応出来ないと言う場合も起こり得ます。その際は、事業の整理を含めた次善の対策を考えることが必要です。

勉強会のポイントは

1. 平素の資金繰りは健全か。(最低3期分の決算書を頂き私が検討資料を作成し診断します)
2. リスク発生時の工場や事務所の損害を考えて見る。
3. 損害保険の内容を検討する。(中小企業は新に地震保険に加入することは非常に困難です。また既に加入している地震保険については、次回の契約更改時に保険料が急騰するだろうと言われています)
4. 少なくとも1ヶ月は仕事がストップすると見て、不足資金を予想する。不況等で売上が減少した場合の資金繰りも予想する。(作成を事前の宿題にして各社と一緒に作成します)

資金繰りについての私の解説は日本フォーム印刷工業連合会のHPに掲載されていますから是非ご覧下さい。

http://www.jfpi.or.jp/JBFA/seminar/0901_16/bcp_haifu_2.pdf

PRINT CHINA 2011 見聞録

有限会社メディアテクノス 代表取締役 井上秋男

今年最初の国際印刷展示会となる「第2回中国国際印刷技術展覧会PRINT CHINA 2011」が、中国印刷及び設備器材工業協会(PEIAC)他の主催により、4月9日から13日までの5日間、中国・広東省東莞市の広東現代国際展覽センターで開催された。PRINT CHINAは、北京で開催されるCHINA PRINTの姉妹展として2007年に初めて開催された。2回目となる今回は、「環境、効率化、デジタル」をスローガンに、出展面積12万㎡(前回8万㎡)、出展社1261社(同1047

社)、来場者の延べ人数16万人(同10万人)規模で開催され、世界4大印刷機材展の“drupa”に次ぐ展示会に躍進した。背景として、中国経済の成長に伴い印刷需要が拡大したこと、開催地の広東省は輸出関連で印刷会社が多く設備投資も活発で従業員の関心も高く展示会には絶好の開催場所となっている。

展示会は、メイン会場の3号館に日米欧と中国の大手企業が「オフセット・デジタル印刷機、CTP、後加工機」などを出展。4～8号館に

はセミナー会場や中国の中小企業が様々な印刷機やインキ、版材などの印刷関連製品を出展し賑わった。日米欧のメーカーは自国や地域の印刷産業が不振のため厳しい環境となり、需要が拡大している中国市場に向けて最新製品を多数出展して、受注拡大に向け積極的な展開を行った。商談も活発化し、KBAは期間中に250台近く予約注文を受けるなど、各出展社とも当初の予想を上回る好成績となった。閉幕後、主催者から「Print China 2011 盛況空前、展会取得了决定性胜利，根本性成功，参展商效益空前，观众满载而归!」(Print China 2011は前例のない華麗な展示会となり成功した。出展者は目標を達成した。そして、来場者は望む物を得た)と報じられた。

出展内容で注目を集めたものは

①オフセット印刷機ではUV化が進展し、「短納期対応、幅広い原反、印刷物の皮膜強度が強い、パウダートラブルが無い、ドライダウンが無い」などのメリットが中国市場でも関心が高く、小森コーポレーション、リョウビイマジクス、KBAをはじめ、各社から出展が相次いだ。②中国でもデジタル印刷機の導入・検討が進展し、インクジェット方式では、方正が中国初のフルカラー機P5000を実演し注目を集めた。Kodakもモノクロ機Prosper1000Press、デジタル印刷機大手のOceもJetStream1000を初

出展し話題となった。HPは中国でも導入が進展しているIndegoシリーズ7機種を出展し多彩な印刷を実演。トナー方式ではキヤノンは最新機imagePRESSC7010VP、富士フイルムはColor800PRESS、KodakはNexpressSE3000を実演した。

CTPは、生産能力拡大によるプレート価格の低下、短納期小ロットに対応した生産性向上、現像液などの環境対応などを背景に、現在の20%程度の導入率から普及加速化している。富士フイルム、大日本スクリーン、Kodak、Agfaをはじめ、中国の大手メーカーが揃ってセッター、プレート及び関連製品を出展した。全体動向として、わが国と同じくサーマル主体となり、統合ワークフロー・カラーマネージメントやインキ削減などの新たな取組みもはじまっている。

後加工機はメカが多いため中国企業が多数出展し、「丁合、綴じ、製本、折り、断裁」などの後、加工を単能機や複合機で実演。大手のホリゾン はウイルソンブースに出展し、最新の後加工機を多数実演し注目を集めた。

昨年から相次いだメーカー提携や製品相互供給が展示会で発表され、キヤノンは子会社化したOceと共同出展、manrolandもOceとの戦略的提携を紹介した。

以上、かけ足で見聞録を紹介したが、「食は広州に在り」そして「印刷も広州に在る」ことが分かった。



Print China 2011 会場風景

関東フォーム印刷工業会

平成23年新春懇親会を開催

1月27日、目白・椿山荘で来賓、会員、関連企業の方々の約200名が参加頂いて、平成23年新春懇親会を開催した。渡辺浩次支部長の司会で進行が行われ、瀬戸良教会長は開演挨拶で「情報媒体のデジタル化が進む中、数量的に見れば紙離れの現状があるが、情報伝達においては紙媒体も捨てたものではないと感じている。拡散しがちなデジタル媒体に対して、紙媒体は必要な情報だけを配布できる。紙による情報伝達が見直される時期が来るだろう。他方、価格競争の過熱は付加価値のない商品の提供につながり、印刷の市場価値を損なう。今年はそこから脱却すべく、真面目に良い商品を提供することで、お客様と社会に貢献できるよう、ともに将来を展望し本音で語り合い努力していこう」と念頭所感を述べた。来賓を代表して日印産連

の池田政寛専務理事が挨拶され、顧客ニーズや消費者の行動を的確につかみ対応することで生まれたヒット商品の事例を挙げながら「昨年の電子書籍元年に対し2年目となる今年は、それを如何にしてビジネスにつなげるか、そして無駄な価格競争を如何に避けて差別化していくのか、真剣に考えるべき時である」と喚起。日本フォーム工連の小谷達雄会長が「くよくよ悩んでいても物事は解決しない。大いに笑って前向きに」と呼びかけ、明るく健やかな年になるようにと杯をあけて開宴した。

祝宴では会員の方々の活発な情報交換が行われる中、高宮静之副支部長の司会で始まったビンゴ大会は大いに盛り上がり、福田学副会長の音頭による三本締めでお開きとなった。



瀬戸会長 挨拶



新春懇親会の風景

中部フォーム印刷工業会

新会長に杉山悟氏が就任

中部フォーム印刷工業会では3月度理事会において、松尾会長に代わり杉山悟理事(小林クリエイト株式会社執行役員名古屋支店長)が4月より新会長に就任することを決定した。

合わせて藤沼顧問の退任、松尾現会長の同工業会顧問就任を決定した。なお、松尾氏は日本

フォーム印刷工業連合会の委員会委員として引き続き出席をされる。

なお、当会長交代については、5月25日(水)に開催を予定(於：名古屋メルパルク)されている同工業会の平成23年度定期総会にて、理事の交代と併せて承認を受ける予定です。



新会長 杉山悟氏

杉山悟新会長挨拶

印刷媒体の電子化に代表される情報コミュニケーションの構造変化が叫ばれる中、今回の未曾有の大震災により経済的な打撃はもとより社会的な

不安も広がっています。

そういう中での中部フォーム印刷工業会会長という重職を拝命し緊張感で一杯です。微力ではありますが会員各社様と協力し、日本フォーム印刷工業連合会のご支援を頂きながら、業界の発展に寄与できるよう、邁進していく所存です。

東北フォーム印刷工業会

新春講演会「デザインと音楽をめぐる旅」を開催

東北フォーム印刷工業会(佐久間信幸会長)は1月25日、仙台市ホテル白萩にて理事会、新春講演会、及び新年会を行なった。

講演会には28名が参加して「デザインと音楽をめぐる旅」と題し、福島学院大学非常勤講師遠藤和紀氏が講演され、「人類は言葉を持つ前からデザインをし、音楽を奏でており、デザインの歴史は音楽の歴史でもある」とチェロとギ

ターの演奏に、佐藤由愛様(ジュリアード大学学院卒)のヴァイオリンの演奏を交え講演された。

私達に馴染みのある曲や、絵画をもとに芸術の足あとをたどる楽しいお話と、感動の素晴らしい演奏に耳を傾けた。

講演会の後の新年会では、30名が参加して楽しい懇親のひと時を過ごした。



挨拶する佐久間信幸会長



新春講演会の風景

関西フォーム印刷工業会

新春講演会と新年互礼会を開催

関西フォーム印刷工業会(清水順市会長)は、1月20日、大阪堂島ホテルにおいて約90名が参加して、新春講演会と新年互礼会を開催した。

講演会では「言葉は魔物・宝物 ～言葉ひとつでこう変わる～」と題して、フリーアナウンサーの羽川英樹氏から、「職場でのコミュニケーションの取り方」「部下にやる気を起こさせ

る話し方」「物事を正確にわかりやすく伝えるスキル」など言葉をテーマに、豊富な実例や放送業界の裏話を交えて、わかりやすく話された。「傾聴力」「課題発見力」「実践力」「ほめる力」「説明伝達能力」の「五つの力」を駆使すれば、仕事を逃すことがないと講演された。

講演後の新年互礼会で、挨拶に立たれた清水

会長は「印刷業界は大変な時代に突入しております。この難局を皆さんで手を取り合って解決

してゆきましょう」と話され、皆が親交を深め有意義な時間を過ごすことができた。



清水順市会長



羽川英樹氏

九州フォーム印刷工業会

勉強会「印刷業界がいかにサイネージと共存共栄できるか」を開催

九州フォーム印刷工業会(和田秀一郎会長)は2月22日、博多廊にて定例会を開催。引き続き会員及び特別会員が約40名参加して勉強会と新年会を開催した。

定例会の冒頭、和田会長は「これからの工業界の存在価値を高める意味でも異業種の取組みや発想を学び、皆様方との縦、横のつながりを強化していきたい」と挨拶された。会員との交流のために参加された山口専務理事からは、1月度理事会で報告された米国レポートについての補足説明、全国の各フォーム印刷工業会の状況や、フォーム工連としての今後の取組みについて話された。

勉強会では福岡に本社を構え、デジタルサイネージ事業を展開している(株)メディアコンテンツファクトリーの毛塚牧人社長が「印刷業界

がいかにサイネージと共存共栄できるか」と題して講演された。デジタルサイネージ業界は初期の市場をクリアし、次のステップへ進もうとしている。今、デジタルサイネージには時間と場所を選んでコンテンツを変えることと、視聴環境に応じた最適な尺とテーマ設定が必要とされている。もともとDTP機能を持ち得意としている印刷業界は、目先を変えた発想を持って取り組んで行けば、既存の「プリントする技術」「加工する技術」を活かしながら、お客様への価値提供を膨らますことができると講演された。

まずは、デジタルサイネージの存在と特徴を受入れて、我々も取り組んで行く必要があることを実感した。

その後、懇親会場にて新年会を開催し、会員一同、今年の抱負を語り合った。



定例会の風景



勉強会の風景

国際委員会

■国際委員会 北米印刷事情レポート(2011年1月～3月)

米国Distributor業界の動向

1990年代初頭ほとんどが零細業者であったDistributorは印刷業界全体が縮小していく中、数億ドル規模まで成長したトップ2社のWorkflowOne社(1位)とInnerWorkings社(2位)に焦点を当てDistributor業界の現状を見た。

印刷業界の出荷額は90年代の後半までは、米国のGDPと連動して拡大していたが、97年あたりから乖離を始めた。この年は米国のインターネット元年と言われて、インターネットの利用者が急拡大した年で、消費行動が急速に変化するとともに印刷物の需要は横這いになり減少を始めた。(図1)

BF業界では90年代中ごろ供給過剰が印刷業界より一足早く訪れ、生産設備を閉鎖していった。R.R. Donnelley, Quebecor, World Color, Banta, Quad Graphics など大手印刷業者は、吸収合併合戦を繰り広げて今も継続している。今日でも米国の印刷業界は30～40%の供給過剰の状態にある。

この状況を利用して、頭角を現したのが

DistributorトップのWorkflowOne社と2位のInnerWorkings社である。この2社を見ていると供給過剰の状況への対応が、対極的で興味深い。

WorkflowOne社はニューヨークの中小Distributorであったが、80年代後半から買収を経営戦略の中核に添え、95年には17社のDistributorを買収し、99年頃からは封筒、ラベル、DM、一般印刷など、業界の設備過剰で経営困難に陥った印刷業者を格安で買収し、Distributorでありながら製造部門を持つ印刷業界のボーダーレス化を象徴する新しい形のDistributorとして10億ドルを超える売上をあげたが、リーマンショックを皮切りに一気に売上は悪化し6.6億ドルまで激減している。

一方、InnerWorkings社は2001年創業のDistributorで歴史は浅いが2009年の売上は4億ドルを超えた。(図2)

InnerWorkings社は登録した印刷製造業者8,000社の生産設備データと、約100万件の取引価格記録をデータベース化し、最適な製造業者を選択し製品を製造するシステムを構築しユーザーに「製品価格の低減」を提供している。また

図1 印刷出荷額と米国GDPの連動性 1986～2002年

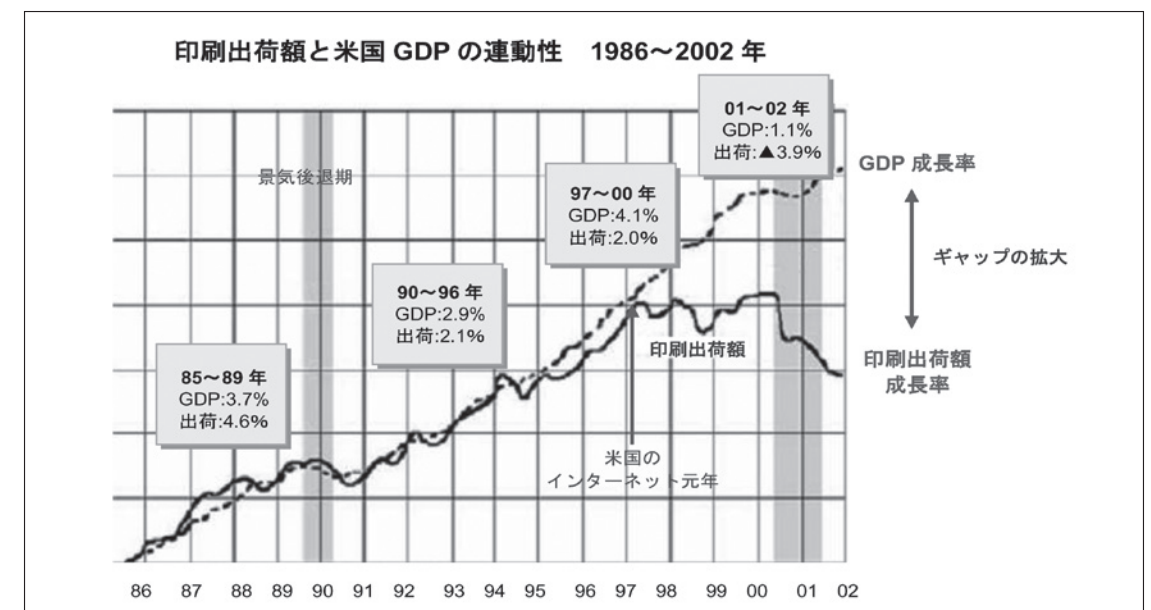
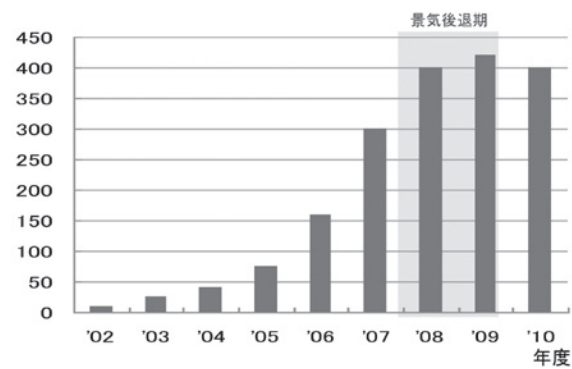


図2 InnerWorkings社の売上高推移



Distributorの得意とする「御用聞きサービス」でユーザーの業務改善を進め「客先の管理コスト削減」を提供することでサービスの「付加価値」を一層高めている。(表1)

同社のシステム：PPM4(Print Procurement Manager v4)

WorkflowOne社は印刷業界が縮小し続け慢性的に需給ギャップが解消されない状況下で買収した設備資産が重荷となって破綻状態。

一方、InnerWokrings社は決して製造部門を持たずに付加サービスとIT化を推し進め、約8,000社の印刷製造業者を集結させ大きな成長を遂げている。

米国印刷業界とメディア

米国に印刷業界が注目しているJoe Webb博士が運営しているWhatTheyThink.comというサイトがある。最近「Disrupting The Future (未来を破壊する)」という本を出版し、印刷業界が、情報化社会の劇的な変貌の中で、どのように対応

していくべきかをまとめている。

ウェブサイト「WhatTheyThink.com」

<http://whattheythink.com/>

書籍「Disrupting The Future」

米国GDPは2000年の約12.5兆ドルから2010年には14.6兆ドルまで拡大したにもかかわらず印刷業界は2000年をピークに縮小し、売り上げ規模は、1,321億ドルから850億ドルまで縮小している。従業員数、事業者数も減少。それより驚くべき数字は、米国一人当たりの印刷消費量が467.61ドルから273.93ドルに激減。(表2)

米国印刷業界はあらゆるレベルで再編が繰り返され、米国のビジネスフォーム業界では経営悪化による統廃合だけではなく、後継者や事業の売却先もないという深刻な問題による廃業も進んでいる。

このままの状況が続けば、印刷業界はさらに縮小し、2020年では米国印刷業界の売上は540億規模となり、2010年と比較すると35.7%の縮小と予測している。これに伴い、事業者数は31.2%、従業員数は40.4%減少し、対GDPでは0.32%規模となり、国民一人当たりの印刷消費量は41.4%も減少していく。

ポストマルチメディア世代の台頭による変革

米国の総人口は約3億人、そのうち約6,000万人は1995年以降に生まれたポストマルチメディア世代。この世代の2009年の情報消費行動は合計10：45時間で、睡眠時間以外はなんらかのメディアに接している。テレビ/ビデオ・パソコン・ゲーム等 ディスプレイを見ているのは7時間11

表1 InnerWorkings社によるユーザーへのコスト削減実績

		製品価格の低減		客先の管理コスト削減	
	ユーザー業種	製品削減金額 (削減率)	労務費削減金額	業務改善金額	削減金額合計 (削減率)
A 社	消費者サービス業	\$15,466,653 (13.23%)	\$5,200,00	\$6,900,000	\$27,566,653 (23.58%)
B 社	医療関係	\$6,893,783 (24.12%)	\$440,000	\$620,000	\$7,953,783 (27.82%)
C 社	産業用製造業	\$5,529,875 (12.42%)	\$1,680,000	\$750,000	\$7,689,875 (18.16%)
D 社	消費者向け製造業	\$84,225 (11.23%)	\$50,000	\$45,000	\$179,225 (23.90%)

表2 印刷業界の現状と将来

	1990	2000	2010	2020	増減率
人口 (億)	2.50	2.82	3.10	3.41	9.8%
GDP (兆)	\$8.8	\$12.5	\$14.6	\$17.0	16.4%
印刷売上 (億ドル)	\$1,238	\$1,321	\$850	\$547	▲ 35.7%
対 GDP 比率	1.39%	1.05%	0.58%	0.32%	▲ 45.0%
従業員 (千)	816	830	495	295.2	▲ 40.1%
印刷事業者数	45,311	39,035	26,859	18,481	▲ 31.2%
1 当たりの印刷消費量	\$495.00	\$467.61	\$273.93	\$160.50	▲ 41.4%

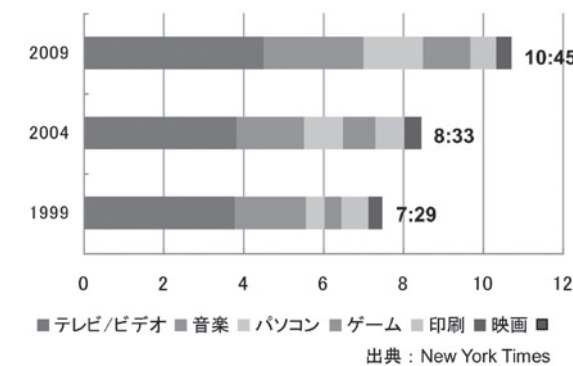
出典：What They Think

分。印刷メディアに接しているのはたった38分。(図3)

このポストマルチメディア世代とネットに積極的なMillennial世代(1976年～2000年生まれ)の団塊ジュニア世代)をあわせると2010年には米国人口の45%前後を占め、2020年には60%の2億人に達する。

このような状況の中、2010年印刷業界や出版業界は「なぜ印刷なのか」、「ウェブはサーフ、雑誌は泳ぐ」等のキャンペーンを始め、3年間に数百万ドルをかけて展開している。しかし、Joe Webb博士は「印刷がそんなに効力があって、素晴らしいものなら、なぜその消費が減少しているのだろうか」との疑問を投げ掛ける。「消費者はニューメディアが便利だからこそ自然と選ぶのである。私たちは印刷業界がおかれた現状を認識して、どのように積極的に対応すべきか考えるべきだ」と話す。

図3 ポストマルチメディア世代の情報消費行動



出典：New York Times

製紙業界からみた2011年の全世界の印刷市場

2010年の世界の製紙業界は全体として6.7%成長し、26年ぶりの好景気であった。2009年は製紙業界にとって35年間で最も大きく用紙の需要が落ち込んだ年であったが、2010年には先年の在庫は全て解消された。しかし、2011年の見通しは2010年ほど期待できない。先進国を中心に実施された景気刺激策がひと段落して需給の拡大が期待できない。

北米市場

米国の印刷業界での用紙消費量は2005～2009年の間毎年約7.5%の減少が続き、ピーク時の2004年から約1570万トン減少した。2010年は約1～2%のプラスに転じたが、50万トンの増加に過ぎない。雑誌やカタログなどが若干伸びたものの、新聞、電話帳、事務印刷の需要は減少し続け、新聞用紙は約5%減少する見込みである。2011年については経済成長が2.1%へと若干鈍化することから、用紙需要も約1%の減少を予測している。2012～2014年に関しても経済全体は成長していくものの、印刷用紙の需要は減少していく。

南米市場

南米市場の印刷用紙需要は過去15年間毎年4.5%の成長を続けたが、2009年は需要が約7%減少した。しかし、2010年は約7% (39万トン) の増加に転じた。2011～2015年の印刷用紙の需要については毎年3.5%成長していくと予測しているが、伸び率の鈍化の要因は紙媒体から電子媒体への移行と考えている。南米の用紙市場の特

徴は、新聞用紙の需要が大きく世界の約6%の新聞用紙を消費している。南米においてもニューメディアの影響を受け、新聞広告のシェアは急速に減少し、2009年に18.6%あったシェアが2012年には15.7%に減少すると予測している。この新聞広告のシェアの減少により、新聞用紙の消費は減少を続けると予測している。

アジア太平洋市場

アジア太平洋地域での2010年の用紙市場は約6～7%の成長を見込んでいる。景気の回復が顕著であったため、広告費の拡大により印刷用紙が約290万トン、新聞用紙が約78万トン増加し、用紙需要が大きく伸びた。中国とインドの2カ国のみで印刷用紙は約210万トン、新聞用紙は約55万トン増加するなど需要が集中している。

その他のアジア諸国も、2009年の落ち込みから急速に回復しているが、日本だけは例外で、印刷用紙は横ばいで、新聞紙は若干減少している。

2010～2015年のアジア太平洋地域での印刷用紙は毎年約4.2%成長し、2015年には2010年と比

較すると1000万トン増加し、5300万トン市場となると予測している。

この増加の牽引役は中国が主役となり増加分の約67%を占め、インドは約150万トン増加して15%を占めると予測している。

欧州市場

欧州では2009年に用紙原材料のコストが急激に上がったため原価割れを起し、2010年は製紙企業にとっては非常に厳しい年になった。用紙市場での値崩れと同時に、化学パルプと再生紙の需給も逼迫した。同年の夏頃から需要が回復し第3四半期まで傾向が継続した。しかし、景気回復の鈍化により、用紙の需要は再び減少傾向に戻っている。

印刷用紙について西ヨーロッパ諸国は慢性的な供給過剰が継続し、2014年まで横ばいが続くとして予測している。2015年になると印刷用紙市場は再び下降傾向となり58万トンまで縮小するが、トルコを含む中央ヨーロッパは毎年4%成長すると予測している。

NPiフォーム NEXT-IJ



次世代を担うフルカラーインクジェットフォーム

近年、DPS事業におけるインクジェット印刷の高速かつフルカラー化は目を見張るものがあります。当社は高白色、高不透明、高平滑でご好評いただいております「NPiフォーム NEXT」をベースに高性能インクジェット適性(耐水性、高発色性)を付与し、新たにラインアップいたしました。

NPiフォーム NEXT-IJ 規格表

米坪(g/m)	64.0	81.4	104.7	127.9	157.0
連量(kg)	55	70	90	110	135

※尚、本製品は受注生産となります。



NEXT-IJ 品質概要

日本製紙株式会社 印刷・情報用紙営業本部 情報用紙部

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-2-2 Tel. (03) 6665-1042

印刷技術の未来を担うパイオニア

MJP20F



フルカラーインクジェットプリンター

- ・最高解像度 600dpi×600dpi
- ・印字速度 200m/min
- ・最大印字幅 541mm

MD-Press



液体トナー方式電子写真プリンター

- ・解像度 1200dpi×1200dpi
- ・印字速度 100m/min
- ・最大印字幅 487mm



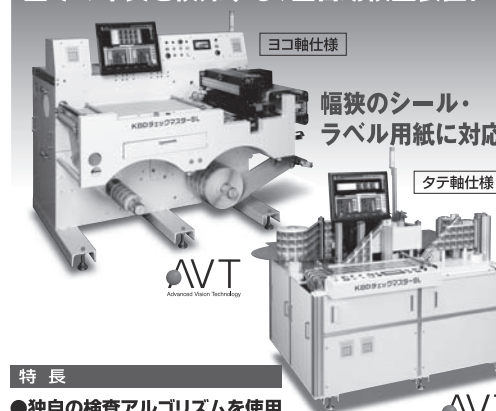
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼 1-13-5
TEL: 047-493-3854 FAX: 047-493-3071
URL: <http://www.miyakoshi.co.jp>

シール・ラベル用全自動検査装置

KBDチェックマスターSL

ヨコ軸仕様 タテ軸仕様

全ての不良を検知する、全自動検査装置。



特長

- 独自の検査アルゴリズムを使用
- 簡単操作
- 様々な印刷物にも検知対応
- プリントフロー(検査結果と履歴の保存機能)



印刷機材の総合商社

株式会社 光文堂

<http://www.kobundo.co.jp>

KOBUNDO

インキ練りローラー自動洗浄装置

KBD ローラーグリーンシステム

インキ洗浄時間の大幅短縮・安全、資源の節約を極める

印刷機の稼働率を大幅アップ



インキカラーコントロールシステム

KBD マイクロカラーSL

シール・ラベル小型印刷機専用システム

タッチパネル方式で使いやすくなって、新機能も追加!

インキカラーコントロールがグッと身近に。

ニュータイプ登場!!



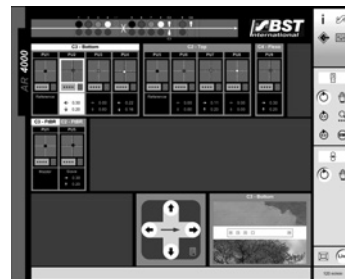
本店/〒460-0022 名古屋市中区金山二丁目15番18号 TEL 052(331)4111(代)
支社/東京 支店/東北・静岡・大阪・北九州・福岡 営業所/北海道・青森・山形
千葉・山梨・沼津・浜松・岐阜・福井・金沢・富山・京都・山口・大分・熊本・沖縄

ビジネスフォーム印刷用 BST自動見当装置システム

プロセスカラーの見当合わせ時間の短縮に最適！

■ 採用のメリット！！

- ・各オーダ及びオーダプロフィールのデータ管理！
- ・ロット量にかかわらず始かり時間の大幅短縮！
- ・オペレータの技量を選ばないシステム！
- ・手動操作に対して大幅な損紙の軽減！
- ・印刷スピードの大幅アップ！
- ・大幅な損紙の軽減



BSTビーエスティ日本株式会社

東京営業所 〒108-0074 東京都港区高輪3-25-27 アベニュー高輪411号室
 本社 〒562-0035 大阪府箕面市船場東1-10-9 箕面フレイベルビル3階
 大阪工場 〒594-0062 大阪府和泉市寺田町3-1-27

TEL: 03-5798-7805 FAX: 03-5798-7806
 TEL: 072-727-4704 FAX: 072-727-4914
 TEL: 0725-44-9930 FAX: 0725-44-9931



21世紀の情報記録を
サポートします。

三菱情報記録用紙

三菱 **NCR** 用紙 **三菱IJフォーム用紙** **DFカラーM・G**
ダイヤフォーム **ダイヤメールシリーズ** **OCR用紙** **感熱紙**

三菱製紙株式会社

洋紙事業部 情報・特殊紙営業部 〒130-0026 東京都墨田区両国2丁目10番14号 両国シティコア ☎03(5600)1462
 大阪営業所 情報用紙グループ 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1丁目3番9号 ☎06(6271)4455

三菱製紙販売株式会社

本店 〒104-0031 東京都中央区京橋2-6-4 ☎03(3566)2341
 大阪支店 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-3-9 ☎06(6271)2271

名古屋支店 〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-16-22名古屋ダイヤビル ☎052(563)7561
 東北支店 〒983-0045 仙台市宮城野一丁目11番1号ダイヤミックビル ☎022(295)7710
 九州支店 〒810-0001 福岡市中央区天神1-15-6 綾杉ビル ☎092(771)1531

Economy & Ecology
エコノミー & エコロジー

New

SCREEN

Truepress Jet520
 フルカラーバリアブル
 インクジェットプリンティングシステム
エントリーモデル

**導入コストを抑えた待望の
シリーズ機登場！！**

＜特長＞

- ◆ Truepress Jet520の品質機能を継承
- ◆ 高付加価値創出
- ◆ Eco設計による環境対応
- ◆ 業務内容に応じた前後処理装置の選択(OP)
- ◆ 全数・全面ビットマップ検査による品質保証(OP)
- ◆ 業務量に応じてバージョンアップ(OP)



●ダイレクトメール
 圧着はがき(先糊、後ニス対応) etc...



●帳票関係
 OCRドロップアウトカラー
 薄紙ノンカーボン用紙
 保険証券・約款 etc...

●パーソナル出版・小ロット印刷
 パーソナルカタログ・自費出版
 新聞・フリーペーパー etc...



株式会社 メディアテクノロジー ジャパン

〒102-0074 東京都千代田区九段南2-3-14 靖国九段南ビル
 VP営業統轄部 VP営業部
 TEL03(3237)3116 FAX03(3237)3203
 ホームページ <http://www.mtjn.co.jp/>

大日本スクリーン製造株式会社

メディア&プレジジョンテクノロジーカンパニー
 〒602-8585 京都市上京区堀川通寺之内上る4丁目
 ホームページ <http://www.screen.co.jp/>